活動報告

全学FDワークショップ@経済学部・通信教育部キャンパス報告

伊佐敷　隆弘*[1)]，中澤　瞳[2)]

[1)]日本大学経済学部，[2)]日本大学通信教育部

A Report on the FD Workshop @ College of Economics and Distance Learning Division

Takahiro ISASHIKI[1)], Hitomi NAKAZAWA[2)]

1) College of Economics, Nihon University
2) Distance Learning Division, Nihon University

Abstract: We held an FD workshop at the campus of the College of Economics, Nihon University on September 22, 2018. The theme of the workshop was “The Freshman Education.” In our preparation, we made sure that the program includes enough break time and that the material is understandable. On the day of the workshop twenty-nine teachers took part and earnestly discussed the learning objective, the learning strategy, and the evaluation of the achievement thereof. The workshop consisted of four sessions. In each session, a member of the taskforce first explained the important points of the session and then the participants entered into discussions. Step by step through the sessions participants made a syllabus of a course for freshmen. After the workshop, the participants answered an evaluation questionnaire by e-mail. According to their feedback, the contents of the workshop were good, but the time was too long; they wanted to take part in FD activities with fewer burdens. We must produce an FD activity in which teachers will readily participate.

キーワード：FDワークショップ，初年次教育，学修目標，学修方略，学修評価

Keywords:
FD workshop, Freshman education, Learning objective, Learning strategy, Evaluation of learning achievement

はじめに

本稿は，平成30年（2018年）9月22日に経済学部と通信教育部が共同開催した「全学FDワークショップ@経済学部・通信教育部キャンパス」の報告である。

1．準備段階での留意点

準備段階で留意したことが2つある。ひとつは「休憩時間を確保すること」である。人間の集中力に時間的限界があることは学生たちを対象とする授業の中で常に体験することであるが，教員が対象の場合も同様

*E-mail: isashiki.takahiro@nihon-u.ac.jp
投稿：2019年1月31日　　受理：2019年2月21日

であると考えられる。休憩時間にリラックスすることによって，その後の作業に集中できる。これが人間の頭の仕組みであろう。もうひとつの留意点は「重要ポイントをしぼること」である。FD担当教員とその他の教員の間には，FDの知識に関して大きなギャップがある。このギャップを無視しては，どんな高度な内容も聞き手に届かない。そこで，当日の説明に用いるスライドの内容を絞り込み，かつ，各セッションにおける作業内容をできる限り明確にするよう努めた。

2．実施の概要

・日時：平成30年（2018年）9月22日（土）9時00分～17時35分
・場所：経済学部本館２階大会議室
・テーマ：大学教育における課題の解決に向けて―教育能力の開発を企画・運営できる人材の育成―
・進め方
　(1) 各セッション（4セッション）の冒頭にタスクフォース（6名）がスライドを使って概要を説明する。
　(2) 各グループ（4グループ）は司会・PC入力係・発表係（セッションごとに交代）を決める。

プログラム

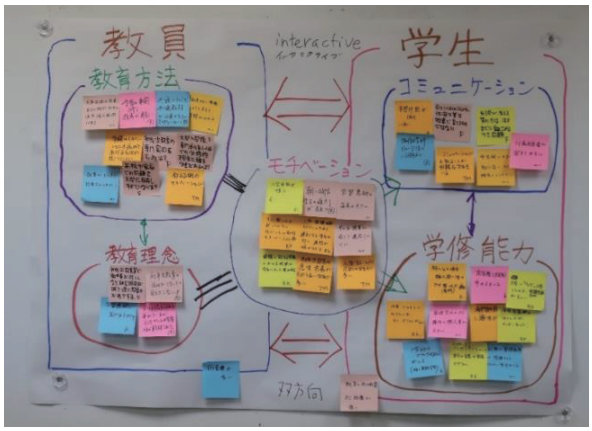
時刻	内　容
9:00	スタッフ打ち合わせ……役割と段取りの確認
9:30	受付開始
10:00	**開会式**（10分）……経済学部長・通信教育部学務担当が挨拶
10:10	ワークショップについて（10分）……スタッフ紹介・スライド上映・各班の係決め
	【セッション１】初年次教育の問題点
10:20	スライド上映（10分）……タスクフォースが概要を説明
10:30	グループ討議（45分）……ＫＪ法（模造紙とポストイットを使用）
11:15	全体発表および討議（30分）……発表3分質疑3分×4班（Ａ班Ｂ班Ｃ班Ｄ班の順）
11:45	昼食休憩（25分）……弁当配付
	【セッション２】学修目標の設定
12:10	スライド上映（10分）……タスクフォースが概要を説明
12:20	グループ討議（45分）……一般目標と行動目標を設定（ＰＣ入力）
13:05	全体発表および討議（45分）……発表4分質疑6分×4班（Ｂ班Ｃ班Ｄ班Ａ班の順）
13:50	休憩（5分）
	【セッション３】学修方略の立案
13:55	スライド上映（15分）……タスクフォースが概要を説明
14:10	グループ討議（45分）……行動目標実現のための方略を立案（ＰＣ入力）
14:55	全体発表および討議（45分）……発表4分質疑6分×4班（Ｃ班Ｄ班Ａ班Ｂ班の順）
15:40	休憩（5分）
	【セッション４】学修評価計画の作成
15:45	スライド上映（15分）……タスクフォースが概要を説明
16:00	グループ討議（45分）……行動目標実現を評価する計画を作成（ＰＣ入力）
16:45	全体発表および討議（45分）……発表4分質疑6分×4班（Ｄ班Ａ班Ｂ班Ｃ班の順）
17:30	**閉会式**（5分）……タスクマスターのコメント
17:35	終了

(3) グループ討議は各グループの司会が進行する。
(4) タスクフォースはグループ討議を見守り，参加者からの質問があれば，答える。
(5) 全体発表・全体討議の司会およびタイムキーパーはタスクフォースが交代で務める。
(6) 全体発表の際，各グループの発表係が発表する。
(7) タスクフォースは時間の進行に常に留意する。（プログラムのゴチックの時刻は動かさない。）

3．各セッションの内容と作成物

【セッション1】初年次教育（大学入門科目）の問題点

ＫＪ法を用いて問題点を抽出した。



ワークショップの作成物（Ｄ班）

一般目標「基礎学力を向上させるために，プレゼン能力を身に付ける。」

NO.	【2】行動目標（領域）	【3】学修方略（指導方略）			【4】学修評価計画		
		方法（活動）	授業の内外	コマ数	評価者	評価時期	評価方法
①	効率的なプレゼン資料を認識する。（パソコン情報に精通する。パワーポイントが使える。）（知識）	講義（1） 演習（1）	内	2	教員	当該授業の最後	リアクションペーパー
②	学生の発表に対する相互評価ができる。（知識）	グループワーク	内	3	相互評価	各回授業中	評価シート
③	図書館が使える。情報収集ができる。（技能）	講義	内	1	教員	当該授業の最後	リポート
④	レポートの書き方が学べる。（技能）	フィールドワーク	外	1	相互評価	当該授業の最後	評価シート
⑤	フィールドワークができる。（技能）	フィールドワーク	外	3	教員，相互評価	当該授業の最後	評価シート
⑥	学修者が直接，人前で発表できるようになる。プレゼンテーション能力が身に付く。（技能）	自己紹介・フィールド課題を発表	内	3	教員，相互評価	当該授業の最後	評価シート
⑦	学修者がプレゼンに対して，積極的に質疑応答ができる。（態度）	演習	内	1	教員	各回授業中	行動観察
⑧	課題に対する肯定否定が明確にできる。（態度）	演習	内	1	教員，相互評価	当該授業の最後	評価シート

【セッション２】学修目標の設定

まず，一般目標を立て，次に，その一般目標を実現するための行動目標を複数設定した。Ｄ班の場合を表に示した。Ｄ班では①～⑧の８つの行動目標を設定している。

【セッション３】学修方略（指導方略）の立案

行動目標を実現するための指導方略を立案した。その際,「どのような方法（活動）でおこなうのか」,「授業内の活動か授業外の活動か」,「何コマあてるか」を決めた。

【セッション４】学修評価計画の作成

行動目標がどれほど実現できたかを評価する学修評価計画を作成した。その際,「評価者」,「評価時期」,「評価方法」を決めた。

４．参加者名簿と全体発表のようす

計 29 名（内タスクフォース６名）（五十音順）＋その他６名

【経済学部】17 名（内タスクフォース４名）

生亀清貴，笠貫葉子，金田耕一，越澤亮，杉藤久志，鈴木基子，戸塚英臣，豊福建太，平木貴子，三井泉，村上英吾，山田仁志，陸亦群，（タスクフォース：伊佐敷隆弘，卜部勝彦，久井田直之，篠ヶ谷圭太）

【通信教育部】12 名（内タスクフォース２名）

雨宮史卓，猪野恵也，小澤賢司，古賀徹，近藤健史，関根二三夫，髙綱博文，根本晋一，前野高章，真野一雄，（タスクフォース：中澤瞳，鍋本由徳）

【その他】６名

タスクマスター（全学ＦＤ推進委員会）：山下聖美（芸術学部），山中康資（国際関係学部）

事務職員：飯田邦博，飯田康雅（経済学部），中野隼人（通信教育部），佐賀友美（本部）

5．参加者アンケートの結果

アンケートは当日に取らず，終了間際にメールで配信し，2日以内に返信してもらった。（この方法にした理由は次のふたつである。①当日終了直後は参加者の疲労がピークに達しているので負担をかけたくなかった。②帰宅して冷静になってから書いた方が回答の客観性が高くなると考えられた。）
回答数は一般参加者23名中16名（70%）であった。

〔1〕今日のワークショップについてのあなたの理解度をお答えください。

	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	計
（1）初年次教育の問題点について	8人（50%）	7人（44%）	0人（ 0%）	1人（ 6%）	16人（100%）
（2）学修目標の設定の仕方について	10人（62%）	6人（38%）	0人（ 0%）	0人（ 0%）	16人（100%）
（3）学修方略の設定の仕方について	11人（69%）	5人（31%）	0人（ 0%）	0人（ 0%）	16人（100%）
（4）学修評価の方法について	8人（50%）	8人（50%）	0人（ 0%）	0人（ 0%）	16人（100%）

〔2〕今日のワークショップについてのあなたの評価をお教えください。

（1）内容について	かなり価値があった	まあまあ価値があった	あまり価値がなかった	まったく価値がなかった		計
	7人（44%）	9人（56%）	0人（ 0%）	0人（ 0%）		16人（100%）
（2）内容に対する時間について	かなり余った	やや余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	かなり足りなかった	計
	0人（ 0%）	0人（ 0%）	11人（69%）	5人（31%）	0人（ 0%）	16人（100%）
（3）内容の難易度について	かなり難しかった	やや難しかった	ちょうどよかった	やや簡単だった	かなり簡単だった	計
	0人（ 0%）	3人（19%）	11人（69%）	2人（12%）	0人（ 0%）	16人（100%）
（4）自分の授業に役立つか	かなり役立ちそうだ	多少役立ちそうだ	どちらとも言えない	あまり役立ちそうではない	まったく役立ちそうではない	計
	8人（50%）	6人（38%）	2人（12%）	0人（ 0%）	0人（ 0%）	16人（100%）
（5）ワークショップの定例化について	かなり必要だ	多少必要だ	どちらとも言えない	あまり必要ではない	まったく必要ではない	計
	3人（19%）	4人（25%）	6人（38%）	1人（6%）	2人(12%)	16人（100%）

〔3〕今日のワークショップで，よかったことをお書きください。

・時間厳守ですすめていただけたのはありがたかった。
・休憩時間の確保や飲食物の配布など気遣いを感じた。
・タスクフォースの先生からの説明がわかりやすく，各セッションのテーマも明確だったため，討議しやすかった。
・圧力や監視のような高い位置からの発言を感じさせないスタッフの皆さんの進行ぶりが優れていた。
・先生方お一人おひとりが学生に対して，教員に対して，熱心に取り組んでいることを改めて感じた。
・皆様が意欲的で，大学での教育に対する意識も高く，また同僚性も高い方々だったので，充実した時間を過ごせた。

・他学部の先生方と授業の実態について話せたこと。
・普段話さない先生と意見交換できたことは大変貴重だった。
・いろいろな誠意性の集約された意見を伺うことができた点は大変良かった。
・文系の学部だったので，話し合いがしやすかった。
・来年度の基礎ゼミの授業内容や，担当講義科目の評価方法について参考になった。
・学修目標の設定，学習方略の設定，学習評価の方法など今後の授業設計に大変役立つ。
・自分の授業改善に役に立ちそう。

〔４〕今日のワークショップで，改善すべき点をお書きください。

・時間を大幅に短縮し，教員がもっと気軽に来られるようにすることで，ＦＤが教員にとってより身近なものになり，効果を上げるのではないか。
・ここまで長時間やる意義があまり感じられなかった。
・昼食休憩が短時間であった。
・時間配分がタイトだったので，「とりあえず」でグループの見解を出すことが多かった。
・４つの課題の発表があったが，あとの３つだけで十分。
・２日間よりも１日で完結する方が良い。
・受講者の人数，講義回数など，講義の設定を具体的にした方が良い。
・どの班も理想論を挙げすぎている。

〔５〕その他，ご意見を自由にお書きください。

・最後の１時間ほど集中力が切れてしまった。
・はじめは集中しているのですが，だんだん後の方になると集中力が欠けてきた。
・参加者が一定のメンバーに限られるので，より多くの先生に参加いただくことが今後の課題。
・大学としては，このようなワークショップを継続して，初年次教育の重要性をもっと理解すべきだが，一部の教員の負担が大きすぎる気もするため，ワークショップに毎年参加するのは検討が必要かと思う。
・できるだけ新任の先生に多く参加していただければ，今後の授業により反映できるのでは。
・非常勤の先生方にも同様のワークショップが必要。
・今後の基礎研究で役立てられそう。
・「参加するだけ」では意味がない。それでもやらないよりはやることで何か学べる人がいれば。
・日本大学全体のＦＤについて，ＦＤは高等教育研究や学習論なので，文理学部や他大の専門家に相談することも必要かと思う。
・スタッフの準備は，さぞ大変なことであったろうと想像します。
・大変有意義な内容で勉強になった。
・運営の先生方の説明が参考になった。

6．まとめ

参加者からのアンケートの集計結果を見る限り，「分かりやすさ」「有用性」という点ではおおむね満足してもらえたようだ。また，自由記述を見ると，休憩時間の確保やタスクフォースの姿勢については歓迎されている。しかし，他方で，ワークショップの定例化には乗り気でない（〔2〕の5）し，ワークショップの時間の長さに対する否定的意見（〔4〕〔5〕）も目立つ。したがって，FDのあり方について更なる改善が必要だと思われる。

私たち教員が学生を相手に教育をおこなうとき最も大切なことは何だろうか。いくつかあるだろうが，その一つは「学生の学ぶ力，成長する力を信じること」だろう。「どうせ学生たちは，やる気はないのだ」，「こちらが教えてやらなければ学生たちは何もできないのだ」という姿勢では，十分な教育効果をあげることは難しい。

教員を相手とするワークショップの場合も同じである。「大学の教員はどうせ研究中心で，教育に関して，やる気はないのだ」と決めつけるのは間違いだ。FD推進委員として学部の教員と接していると，教育熱心な教員がたくさんいることが分かる。概して若い先生や新任の先生は教育に対して強い情熱を持っている。

教員に対して「上から教える」のではなく，教員の情熱を吸い上げ，そこからエネルギーを供給してもらうようなFDのあり方が必要である。そのとき，FDは「教員が参加したくなるFD」になるだろう。そのための方策を私たちFD担当者は真剣に考えなければならない。これが，今回のワークショップを担当して得た実感である。